



クラブ 会報

CLUB BULLETIN (WEEKLY)

鶴岡ロータリークラブ

TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 S 34.6.9

承認 S 34.6.27

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール
例会日 毎週火曜日 12:30~13:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 247711

会長 嶺岸光吉
幹事 佐藤村徳男
会報委員長 川小池繁治
西海正一
佐藤 藤 一丹

No., 1095 1981. 2.17 (火) (曇) No., 33

ビシター紹介

加藤有倫君 清酒製造 本間文一君 左官 } 鶴岡西R.C
今野裕君 内科医 菅原松雄君 建築設計

◆ ゲスト紹介

名誉会員 鶴岡市長 齋藤第六氏
交換学生 ジェームス君

会長報告

嶺岸光吉君

2月22日~28日までの週が国際理解週間になっております。国際間の理解、親善および平和を促進する為にクラブにおいてもロータリー財団への協力、青少年交換、台中港区ロータリークラブの表敬訪問、今年の秋に太平洋地域大会への参加、又今年は国際障害者年でもありロータリーの奉仕に対する熱意を新

TAKE TIME TO SERVE

時間を捧げよう 奉仕のために

たにして国際理解を深められることを期待致します。今日は、この週間にちなんで市長さんから東南アジアの国際理解についてスピーチをお願いしてあります。

幹 事 報 告

佐 藤 衛 君

会 報 到 着

東京R.C、藤沢R.C、遊佐R.C

例会変更のお知らせ

遊佐R.C 2月24日を2月23日に変更

◆ ゲストスピーチ

東南アジアを視察して

鶴岡市長 齋藤第六氏

今日は貴重な時間をいただきまして、最近東南アジアの2、3地区を視察させて頂いたお話を申し上げる機会をいただきまして衷心から感謝申し上げます。

まず、出発に先立ちまして、実は去年の夏に庄内の市町村長会で、今年の研修計画をどうするかということが議題になりまして、5年程前に沖縄を視察したことがありましたので、5年に1回位は足を伸ばして見聞を広めることも大切じゃないか、特に最近におきましては県の主催で洋上大学ということで、鶴岡市の場合には毎年15名の若い青年男女を参加させております。そんなことから市町村長としてもアジアのことを何も知らないでおることは片手落ちではないかというようなことで、ぜひ視察日程に加えて見聞を広めようという趣旨で相談一決しまして、東南アジアということに計画を組んだわけであります。

出発まぎわになりましてから市の共産党議員の方々から、けしからぬ、取り止めにすべきだと申し入れがありました。その趣旨とするところは、どうも東南アジアは今、問題になっているように観光旅行地としては思わしくない、そんなところでどうして行かなければならないかということ。もう一つは予算編成期を控えて一番大事な時期に行かなければならない理由が成り立たないじゃないかと、たまたまそれに加えて、降雪期であって道路交通が市長が不在中に麻痺したらどうするんだというようなことで、取り止めるべきだという要請がございました。しかし、私は何も逃げ隠れして行くわけではないし、職務代理を任命して行かしてもらうのであるからその心配は全く無い。それから東南アジアというのは我々にとって一番身近な国々であるから、共産圏は別として、私は第一番に視察する必要があると考えていることを申し上げましたが、私が出発する前の日までこの問題がいろいろくすぶりましたけれども、市町村長会で決めた以上は、取り止める必要がないと、行かしていただいたのでございます。

百聞は一見に如かずといいますが、我々いろいろなお話を聞いたり、物の本で読んだり、東南アジアのことはそれなりに情報は入りますけれども、何といたっても自分で直接行って見聞させていただいたということが大変な収穫であったと考えています。今回は特にそういういきさつもございましたから、物見遊山に行ったなんて言われてはならないと思ひまして、現地の大使館の方

々には加藤紘一代議士から夫々の連絡をとって頂きました。そのお蔭で行くところ行くところ全部空港まで出迎えをしていただいて滞在期間中、終始大使館の方々につき添って頂いて、いろんなところをご案内して頂いたことが大変有り難いことだったと考えております。

第一番目にシンガポールへ参りました。ここは皆さんご承知のように一つの島で、一つの国が成り立っているということで、面積で言いますと日本の淡路島と同じ位の面積の国でございます。そこには共和制の国家体制をしいていまして、大統領も居りますし、その下に実務を担当する首相という方が居ます。人口は約140万弱でございますが、人口構成からいいますと、日本のように単一民族ではございませんで、中国系の方が75%を占め、マレーシア、インドその他というふうに大別すると4種類の民族の方々はその島の中で生活をするということでございまして、リー・クワン・ユーという人が首相で、中国系の方ですが、人民行動党という政党を率いているわけなんです。そして国会議員というのが全部首相の率いる人民行動党の所属の方々で占めておりますから、政情は極めて安定していて、日本のようにいろいろの政党があって、しょっちゅう争っているというような状態ではない。ただ、何にぶんに面積が狭い、ですが殆んど山という山は無いから全面積、隅から隅まで活用できる条件があるということは恵まれているところだと思いますが、とにかくあの島の中で今後人口が増えたとしても、まず400万、今大体240万ですが、400万以上はとても住めない。それが最大限度だということで、どんどん人が入ってきて住みつくことについては、相当厳しい制約を加えているということをお伺いして参りました。あの国は何といっても外貨を稼ぐには、いわゆる観光が第一でございます。

日本の観光客が1日平均300人は下らないというふうにお伺いしてまいりましたけれども、先ず外貨獲得は観光が第1であるということからスローガンとしては、緑と太陽、2番目は環境の整備、3番目は安全ということをして国の政策目標に掲げまして、実行しているようでもございました。緑と太陽というのは、至るところ街路樹があり、緑が亭々と生い繁っているわけですけれども、一例をあげますと、自分の家の木でも勝手に切ることはできない、国から許可を得なければ木を切ってはならないというような制約があるそうですし、それから道路にはゴミとか吸殻とかいうものは、どこに行っても全然落ちておりません。これはゴミなり吸殻なりを捨てれば日本の円にして5万円の罰金を即座に課せられる、道路に唾をすれば1万5千円の罰金を取られる、というようなお話でもございました。これだけは非常に徹底して守られている。感心してきた一つでもございました。その代りに要所々々、道路の信号機のついているような所には全部、青くペンキを塗ったゴミ箱がついております。捨てるときはそこに捨てなさいということで隅から隅まで、そんなことが行なわれて非常に清潔であります。

それから安全という面については、東南アジアでは恐らく治安の面でも唯一ではないかと思って参りましたが、夜でも一人歩き、何処へ行っても安心だというわけにはいかないんでしょうけれども、まずまずそう狂悪な事件は起きていないとお聞きしました。

それであの狭いところの一つの国があって下部組織、行政組織というのは一体どうなっているんだろうかということが我々の最も関心の高いところでした

が、大使館からまっ先にご案内していただいたのが人民協会という半官半民の機関でございます。国があって、その下には行政機関が無いわけでございます。従って人民協会というものが一番頂点にあってその下に160のコミュニティーセンターというものができております。そこで住民の日常生活に関係のあることを計画したり、実行したりしている。全部委員会制度になっておりまして、それぞれの地域で自分の方は今年は何に重点をおいてやるかということ、例えば、スポーツの振興に力を入れてやるということや、或は青少年の健全育成に力を入れてやるとか、或は老人の福祉対策を重点にするとか、それぞれ地域によって違いますけれども、これは全く自主性にまかせて余り上からとやかく束縛はしない方式で160のコミュニティーセンターが自主的にそういう活動をやっている。お金は政府の方で半分位出して、あとの半分は、それぞれのコミュニティーで、みんなで出し合ってやるということですから、とにかく競ってよそよりも良くやろうと立派な地域社会づくりをやろうと意欲が燃え上がって非常に良くいっていると聞いて参りましたが、その本部に行きますと、160のコミュニティーセンターの活動状況が一目瞭然わかるように掲示されておりました。そこでは結局、指導なり、助言なり、講師の派遣、そういうものが要請があればいつでも手助けをするという役割を荷負っておるようでございます。首相がその一番責任者であって閣僚も5~6人、人民協会の仕事に関係しているというような仕組みでございました。我々がつくづく思うのは、いろいろの人種が集まって出来上がった国というのは、お互い人種間の協和、仲良くする、こういうことにどんなに真剣に努力しているかということがつくづく感じられた次第でございます。そういう活動を通じていわゆる民族協和ということが成し遂げられていると聞かされて、非常に感心して帰ってきたわけでございます。

次は、タイのバンコックへ参りました。あすこは皆さんがご承知のように農業国で、主要産業といえば農業、それ以外にはそう見るべきものがない。面積は日本の約1.4倍の面積があって、人口は約5,000万、そのうち首都のバンコックに約1割の500万の人口が住んでおるわけですが、昔から仏教の国と言われるだけありまして、タイというのは3つの柱からなっていると、まっ先に聞かされましたが、それは国王と仏教と人民と、この3つでなっているんだということのようでした。従ってお寺はどこへ行ってもすばらしい立派なお寺が要所所にありまして、きらびやかな立派なお寺が沢山目につきました。それで、ここはご承知のように、最近カンボジアとか隣の国の政情不安によって、何10万もの難民が国境を越えて入り込んで来るので、これには非常に頭を悩ましているようでございますけれども、国の中は割合に平静に治安も維持されているというふうに見かけましたが、何分にも国民の総生産あるいは1人当りの生産高というものが、まだ非常に低いので、生活水準そのものは大変遅れているとお見かけして参ったわけです。何んと言ってもASEANの中では、シンガポールは日本に次ぐ第2番目です。あとはまだまだ相当距離があるという感じでございます。

大使館の方から第1番に市役所に案内していただきまして、500万都市ですから日本で言えば東京都に値するような市役所ですけれども、格としては県庁みたいな取り扱いを受けておりまして、副知事が4人も居るような仕組みで、その一人の副知事さんにお目にかかって、今バンコックで一番お困りの点は何んですかと聞きましたら、第1番に出てきたのは交通問題ですと言われました。

なるほど見ますと500万都市でありながら地下鉄があるわけなし、電車があるわけなし、公営交通としてはバスが街の中を走っておりますが、ラッシュ時になりますと物すごい混雑でして、今にもこぼれ落ちそうな格好で走っているわけです。日本では考えられないような、戸も閉めないで、ぶら下がって。事故起きないのですかと聞きましたら、1年に2人や3人は落ちて死んだり、けがをしたりする入獲居るけれども、そんなことは言っておれないんだということです。とにかく公営交通バスを走らせておりますけれども、それだけでは対応できないので民間でトラックを改造して、後ろの方に腰掛けをつくってバス代りにどんどん走って、お金を貰って輸送している。それから、日本でも20年も前に走っていた三輪車、これがまだ街の中を相当走っているんですが、いまだ三輪車なんてどこから買うんですかという、これはみな日本のものですよ。20年も30年も前に買ったものを部品をやりくりしながらまだ走らしているんです。とおっしゃってありました。だから日本なんかからみれば大変不自由な思いで市民生活をやっていると言えます。

それから農村風景を見たいと1時間半ほど自動車走らせて農村部へ行ってみました。確かに米の主産地ですから田んぼには米が作ってあるんですが、日本のように区画整理とか、灌漑水路というような整然としたものは何一つ無いんです。もう少し土地改良事業でもやったらもっとたくさんとれるようになるんじゃないですか、と大使館の方にもお聞きしたんですけども、そのとおりなんですが、地形によって、全く平らな土地であっても雨季になって、半年も毎日雨が降ると低いところは、だぶぶり水がつくわけなんです。それがそのあと低くて傾斜がないために水が引くの何カ月もかかる、だからそれだけの雨水を排除するだけの土地改良事業というのはとても投資しても合わないし、まず不可能に近いということです。農産物の生産性の高いのは、ずっと北の方のも少し土地の高い水の溜らないところ、そういうところがタイとしては主要な農産地であって、南部とか東部とかの低いところは、米を1回取るのがやっとなのであるということです。もとは殆んど田植えなどしないで米が実れば刈り取って、その根からまた出来たらこれを実らして刈り取るというようなことをやっておったのですが、最近では日本あたりから農業技術者が行きまして、田植えというのはやった方が良くんだと、こういうふうにやればこうなるんだということを指導しておりますから、最近では田植えが大変普及されるようになって、生産高も大変上がって来たという実情でありました。

それから香港は、みなさんもおいでになっておわりのとおり、これもまた非常に狭いところにたくさんの方が住んでいる。勢い、建物は魔天楼のような高層建築がたくさんございますが、何としましてもうらやましく思うのは自然に恵まれた良港で、日本のように防波堤など造らなくとも、自然に港が島に囲まれてできている。非常に恵まれたところだなと思いましたが、香港島は永久租借地であり、その対岸の九竜地区は99年の期限をもつ租借地ですから、その期限まで10年そこそこしかないということでした。その時に九竜地区を中国から返せといわれるのか、どうなのか。これが香港にとっては非常に重大問題であるということで、今からその話題が出ているということでもございました。総じて言えることは、逆に我々は日本から離れて、向こうから日本を眺めた場合、何んとしてもまず有難いと思うのは、単一民族であること、何種類もの人種が集まって出来た国ではない単一の、みんな同胞、一つの民族であること、これが

何よりもまず恵まれた有難いことではないかということです。

それからもう一つは、通貨、これが日本では円一本で流通しているわけですが、シンガポールでも、バンコックでも、香港でも米ドルあり、シンガポールドルあり、日本円あり、こういうのが流用しているわけですから、日常生活において非常に不便であろうと思いました。

それからもう一つは、非常に暑いです。2月、3月、4月というのは一番いい気候のときですけれども、それでも28~29°から30°ぐらいの気候でございます。それでまあ、年がら年中暖かくて非常に良いだろうなあと思って行きましたけれども、こんなに年がら年中暑くては参ってしまうだろうと思いました。四季があるということは我々日常生活にとって非常に有難いことだと思いました。更に水が飲めるということです。シンガポールは水道の水を飲んでもよいとのことでしたけれども、バンコックとか香港は水道の水は絶対飲まないで下さい、飲み水は冷蔵庫に入っているビンの水を買って飲んで下さいということです。ですから非常に不便極まりないわけです。これも私は不思議に思って、ここまで水が澄んでいるんだから、顔を洗ったりするのは大丈夫だけれども飲むのには適しない、というようなことでなく、もう一步進んで消毒なんかすれば飲めるようになるのに何故しないのか、と聞きますと、バンコックでは、その通りだ、だけれども人間が飲んだりする水は全体の使う水の10分の1以下に過ぎない、ここまできれいにする水を何も無菌のものにする必要はないんだ、飲む水は自分で煮沸するなり自分の責任でやりなさい、そこまで金をかけてはおれないと、こういう考え方なんです。と、いうことで飲み水は日本のように勝手には飲めない。日本はどこへ行ったら水道の水は、飲めない水なんてありっこないわけなんです。このへんは大変有難いことだと思いました。

それと治安ですね。日本でも狂悪犯罪が起きてはいますが、東南アジアの旅行先きでは旅行社のガイドの方から、持ち物は旅館へ着いたら貴重品預りにあずかりなさい、身につけておいては駄目だと、それからドアは必ずロックしておきなさい、鍵だけでなく鎖をはめておけ、と、それまで注意を受けるわけですけれども、その点、日本は何処へ行ってもそんな窮屈な思いはしなくとも旅行が出来ますし、大変有難いことだと考えてきました。

今の生活状態といい、政治経済問題といい、あらゆる面から見ましても、日本は恵まれてはいます、そう不平不満は言っておれないんだということをつくづく感じて来たわけでございます。

ちょうど時間になりましたのでこれで終わらせていただきます。大変有難うございました。

出 席 報 告

本出 日 の席	会 員 数	71名	欠 席 者	秋野君、阿部(与)君、中村(真)君、黒谷君、飯白君、今野君、石井君、板垣(俊)君、金沢君、小池君、三井(健)君、諸橋君、斎藤(栄)君、斎藤(利)君、笹原君、佐藤(忠)君、佐藤(友)君、菅原君、玉城君、丹下君、山口君
	出 席 数	50名		
	出 席 率	70.42%		
前出 回 の席	前回出席率	80.28%	メ ア ッ ク ブ	秋野君、板垣(広)君、風間君、本山君、野村君、佐藤(友)君、横田君、高橋(正)君、玉城君
	修正出席数	66名		
	確定出席率	92.96%		

一鶴岡西 R.C